

在日インド人に対する日本人が持つステレオタイプ

ーインド人と交流したことがある日本人に対する調査を通してー

サンジャナ・パタンゲ（インド）

キーワード

在日インド人、ステレオタイプ、異文化理解

1. 研究背景と目的

本研究は、日本人がインド人に対して持つ様々なステレオタイプやイメージを明らかにすること、また、そのようなイメージがインド人の日本での生活に与える影響について探究することを目的としている。筆者は、以前の交流で日本人の大学生がインド人について「しつこい」というイメージを抱いていたことを聞き、日本人がインド人に対してどのようなステレオタイプを持っているのか調査したいと考えた。また、日本に住むインド人が執筆した『Indian Migrants in Tokyo』という本を読み、日本におけるインド人移民・労働者の生活についての洞察を得た。その中では、インド人は日本社会に溶け込むために努力している一方で、さまざまな課題に直面していることが述べられていた。

以上のような背景から、本稿では、日本人がインド人に対してどのようなステレオタイプを持っているのかを調査やインタビューを通じて明らかにし、そのステレオタイプが異文化理解に与える影響について考察する。異文化理解の不足がステレオタイプの原因となっている可能性があるため、異文化理解とステレオタイプの関係性を探求し、改善策を提案することも目指す。

『日印関係（基礎データ）』（外務省、2022）によると、近年、日本国内に滞在しているインド人の就職希望者が増加しており、在日外国人の中でインド人の割合が高くなっている。2015年、当時の日本とインドの両首相は、「日本・インドビジョン 2025 特別戦略・グローバルパートナーシップ」を発足させ、労働力交流、技術交流、教育における協力の重要性を促進することを目的としたプロジェクトを開始した。出入国在留管理庁によると、インドからの滞在者のうち就職などの目的で滞在している人々の数は、2015年は26,244人であったが2022年には40,752人にまで増加している。この数は、他の在日外国人と比較して3～4%程度の割合である。日本にいるインド人の数はまだそれほど多くない。

さらに、日本総研（2017）によると、インド人の日本での居住者数はまだ限られているが、東京への流入は「西葛西・リトルインディア」の発展に寄与しており、今後さ

らなるインド人の流入が予想される。以上のことから、日本とインドの異文化理解を促進するために、日本人がインド人に対してどのようなイメージを持っているのか、さらに、そのようなイメージは何に由来するのかを明らかにする必要がある。

この研究では、日本におけるインド人のポジティブな、そしてネガティブなステレオタイプについて論じる。インド人と接触したことのある様々な職業を持つ日本人を対象に、インド人に対するステレオタイプの形成や日本人の認識に与える影響は調査を行って明らかにする。ステレオタイプによる異文化摩擦を取り上げ、異文化理解の重要性を論じ、日本におけるインド人に対するステレオタイプを改める必要があると結論を導く。

以上のことから、本研究では、まず、2章でステレオタイプの定義と関連する先行研究を概観する。次に、3章でステレオタイプ化について述べる。次に、4章でステレオタイプの脅威の定義や調査結果を示す。最後に、5章で、本調査の結果を基にステレオタイプと異文化理解について述べる。

2. 先行研究

2.1 ステレオタイプの定義

本書では、ステレオタイプの定義を定め、偏見やネガティブなステレオタイプの関係を先行研究の分析を通して述べる。まず、ステレオタイプという言葉の定義については、Lippman(1922)にさかのぼることができる。Lippman(1922)は、ステレオタイプを「特定の社会集団に関連する一連の特徴」と定義している。また、Eagly & Chaiken(1993)は、ステレオタイプは「個人が社会的集団に帰属させる属性」から構成されると主張している。

ステレオタイプとは、個々の特徴に関係なく、グループ内（イングループ）のメンバーシップのみに基づいた、個人に関する特定の信念または仮定（考え）である。ステレオタイプは肯定的または否定的である可能性があり、過度に一般化すると、グループのすべてのメンバーに適用される。

Long(2015)は、ステレオタイプは、特定の社会集団のすべての構成員の特徴を連想させるため、必然的に単純化されすぎた表現になると指摘されている。そのような限定された理解に基づいて他者を見ることは、重要な個人の特性を見落とすことになるため、ステレオタイプはしばしば誤解を招く。ステレオタイプは他者を真に「見る」ことを妨げる。その結果、真の「対人」理解を達成する妨げとなる。例えば、「アジア人は勉強ができるが、スポーツは苦手」というステレオタイプは、アジア人をスポーツから遠ざけ、不当な扱いをする可能性がある」と述べられている。

次に、偏見やネガティブなステレオタイプの関係について先行研究を通して述べる。Allport(1954)は、偏見は、特定の社会集団に所属しているという理由だけに基づく、個

人に対する否定的な態度や感情であると述べている。一方、Brigham(1972)では、ステレオタイプと対象グループに対する態度の間には何の関係もないと調査結果の要約が記されている。

最後に、この偏見に基づいてある個人や集団に対して行われる行動が「差別」といわれる。Allport(1954)では、差別とは、個人が特定のグループに属している結果としての、個人に対する否定的な行動である。つまり、特定のグループに対して否定的な信念（ステレオタイプ）と否定的な態度や行動（偏見）を保持した結果として、人々は偏見の対象を粗末に扱うのである。

2.2 なぜステレオタイプ化をするのか

本節では、ステレオタイプ化について述べる。Gaertner & Dovidio (1986)は、ステレオタイプは人種差別制度に根ざし、現代文化の側面によって継続される。この研究によれば、ステレオタイプは、個人の認識や行動に影響を与える社会的構成要素や歴史的出来事によって形成される。

まずは、具体的には、平等主義的で偏見のない自己イメージを持っている人でも、状況を導く解釈規範が弱ければ、偏見を持って行動することがあるとしている。つまり、個人が自らの価値観や信念を省みず、特定の社会的文脈や文化的要因の影響を受けると、ステレオタイプに基づく偏見行動が生じやすくなるとされる。

次は、歴史的な出来事もステレオタイプの形成に影響を与える要因と考えられている。過去の時点で形成された集団に関するステレオタイプは、人間の心がその情報を記憶しているため、現在に至るまで持続する可能性があると考えられている。つまり、過去の出来事や社会構造が個人の認識や態度に影響を与え、特定の集団に関するステレオタイプを形成するということである。

最後に、ステレオタイプや偏見の存在を理解し、それらに対処する上で重要な概念である。偏見を減らし、平等な社会を作るために必要なこととして、社会の変革、個人の教育、相互理解の促進が重要視されている。

2.3 ステレオタイプの脅威

前節を踏まえて、本節では、ステレオタイプの脅威について述べる。Steele & Aronson(1995)は、ステレオタイプの脅威とは、「自分のグループに関する否定的なステレオタイプを、自己の特徴として確認してしまう危険性があること」と述べている。つまり、自分の集団のネガティブなステレオタイプが自分にも当てはまる可能性があることを認識することは問題である。本人がそのステレオタイプを信じていなくても脅威を感じることもある。本人が自分の同人種に対する脅威である。

実際に、Steele and Aronson(1995)の実験では、アメリカ人とアフリカ人にあるテストを受けさせ、アフリカ人には「このテストは根本的な能力の指標である」と、アメリカ人には「ただのテストである」とそれぞれ伝えた。調査の結果、テストの前にステレオタイプの脅威について聞かされていたグループは、もう一方のグループより成績が悪かった。この実験では、アフリカ人は知的能力が低いというステレオタイプの脅威がパフォーマンスに影響したことが明らかとなった。このような調査結果からステレオタイプの脅威が本人の自分に対する認識やパフォーマンスにも影響を与えるということが明らかになった。

3. ステレオタイプと異文化理解

前節を踏まえて、本節では、ステレオタイプと異文化理解について述べる。ステレオタイプは、他の国や文化の個人に対する人々の認識や態度を形成することが多いため、国際理解に大きな影響を与える可能性がある。個人がステレオタイプによってのみ物事や人々を判断すると、限られた情報や不正確な情報に基づいて他人のことを恣意的に推測するため、誤解や偏見につながる可能性がある。たとえば、「A 国の人は怠け者である」と信じている場合、たとえ A 国のある個人が非常に勤勉であっても、その国の人と一緒に仕事をしたり、雇ったりする意欲は低くなる可能性がある。その結果、共同や文化交流の機会が失われ、最終的には国際的な相互理解が妨げられる可能性がある。

一方、ステレオタイプは、ある国や文化について知識が不十分である、あるいは直接的な経験がない場合、異文化理解に役立つこともある。Kanobana(2012)は、「ステレオタイプはいきなり生み出されるものではない。ステレオタイプはどこからかやってきて、何かを教えてくれる。ステレオタイプは、相手のステレオタイプを生み出した文化について何かを教えてくれる。ステレオタイプ化された文化について何かを教えてくれることがある。しかし、ステレオタイプは完全な知識を与えてくれるわけではなく、真実のある部分だけ示し、強調している。したがって、ステレオタイプは無視されるのではなく、道具として使われるべきである。ステレオタイプが信頼に足るものではないことを認識することが、ステレオタイプを理解する第一歩である」と述べている。つまり、ステレオタイプは異文化理解や異文化コミュニケーションに役立つこともあるということである。しかし、他の文化のある部分だけ強調されているため、ステレオタイプによっての知識が不十分であると言える。

4. 調査

4.1 予備調査

本研究では、日本人がインド人に対して抱いているイメージを明らかにするため、予備調査(アンケート調査)を行った。調査は Google Form を用いて行い、Jackman(1973)をもとにして作成した。内容は、形容詞のチェックリストから「適切な」グループ特性の選択と集団の特徴に対する賛成もしくは反対の表明という二つの部分を中心とした。対象者は、インド人と接触経験のある 30 名の日本人である。アンケート調査の質問項目を表 1 で示す。

表 1 日本人のインド人に対する印象

1) インド人との交流の経験はありますか。 はい いいえ	
2) (1) に” はい” を答えた方へ：どんな経験がありますか。 選択：職場の同僚 大学で 知り合い	
3) 「インド人」と聞いて思い浮かべる言葉は何ですか。 (複数回答可能)	
1. 優しい	2. 攻撃的
3. しつこい	4. 恐ろしい
5. 不潔な	6. 無秩序な
7. 平和的	8. 宗教的
4) そのイメージは、何を見て・聞いて、そう思いましたか。	
5) インド人について何か固定観念／ステレオタイプを聞いたことがありますか。 はい／いいえ	
6) それは何ですか。 (例えば、インド人は～である)	
7) あなたは、日本で「インド人は無礼で手に負(お)えない」というステレオタイプを聞いたことがありますか。 はい／いいえ	
8) 同僚や同級生がインド人だったらどう思いますか。	
9) インド人に対する否定的なステレオタイプについて誰かが話しているのを聞いたことがありますか。 はい／いいえ	
10) (9) に” はい” の方へ：それは何でしたか。	

4.1.1 予備調査結果

予備調査のうち、まず、日本人（社会人）を対象とした「インド人と聞いて思い浮かべる言葉は」という質問に対して得られた回答を表2に示す。

表2 日本のインド人に対する印象

イメージの肯否	特徴	回答数
ポジティブ	優しい	20
ポジティブ	明るい	17
ネガティブ	しつこい	14
ニュウトラル	宗教的	14
ポジティブ	平和的	1
ネガティブ	無秩序	5
ネガティブ	おしゃべり	4
ネガティブ	不潔な	3
ネガティブ	攻撃的	0
ネガティブ	恐ろしい	0

表2で示したように、最も多かった答えは「優しい」が20名であった。次に、「明るい」が17名、「しつこい」「宗教的」が14名の順番に現れた。このように、予備調査では、全体的にネガティブな言葉よりもポジティブな言葉が多く見られた。

つぎに、日本人（社会人）を対象とした「インド人についてステレオタイプを聞いたことがあるか」という項目では、「はい」が52%、「いいえ」が48%となりほぼ同数となった。

対象者の半数以上が、インド人について何らかのステレオタイプを聞いたことがあると回答した。つまり、インド人に対するある程度のステレオタイプが広く認知されている可能性があるということが分かった。

最後に、「インド人に対する否定的なステレオタイプについて聞いたことがあるか」の回答では、「はい」が36%、「いいえ」が64%となった。この結果と表1で示した結果を合わせて考えると、インド人に対するイメージはネガティブなものよりもポジティブなものが多く存在しているということが分かる。しかしながら、約3割の人がネガティブなステレオタイプも聞いたことがあると答えたことから、インド人に対してネガティブなステレオタイプを持っている日本人も決して少なくないということがうかがえる。

ここまで、予備調査の結果の中で特に本研究の内容と直接関連するものを中心に示した。これらの予備調査の結果をもとに、本調査ではインタビュー調査を実施することにした。

4.2 本調査の概要

本調査の目的は、日本人がインド人に対して抱いているステレオタイプは、どのような経験や媒体によってもたらされているのかを明らかにすること、そして、そのステレオタイプはどのように日本人の認識に影響を与えたかを明らかにすること、以上2点である。調査方法はインタビューであり、2023年6月上旬から中旬にかけて行った。対象者は、インド人と交流したことがある日本人5名で、インタビューは1名につき約25分を行った。本調査の対象者について、表3に示す。

表3 本調査の対象者

	年齢	性別	出身	職業
Aさん	47	女性	福島県	国家公務員
Bさん	55	男性	愛知県	会社員
Cさん	43	男性	福島県	自営業
Dさん	48	女性	愛知県	アパレル企業
Eさん	38	女性	愛知県	芸術家

表3で示したように、本調査では対象者5名を決定する際、それぞれ異なる職種の人物を選んだ。その理由として、1つは、日本人がインド人についてどのように考えているのかを理解するためである。そしてそれぞれがもっているイメージはどう違うのかを理解するためである。インド人を知るようになったきっかけは人それぞれなので、インタビューでの答えも違うと予想される。もう1つの理由は、日本の社会におけるインド人の一般的なイメージを把握するためである。そのためには、「大学生」「会社員」など特定の集団にインタビューを行うのではなく、できるだけ幅広い職種の人々に調査を行うことが必要であると考えた。表4に、本調査で用いたインタビュー項目について示す。

表4 インタビューの質問

問1	インド人に対して、あなたが持っている一般的なステレオタイプは何ですか。 (ポジティブとネガティブなステレオタイプを含む)
問2	『項目1』のステレオタイプは「いつ」「どこ」で知りましたか。

問 3	『項目 1』ステレオタイプは継続化されていると感じられますか。もし、そうであれば、どのような方法「メディア、など」でそれが行われていると思いますか。
問 4	『項目 1』のステレオタイプの形成に影響を与えた可能性のある歴史的または文化的要因について、気付いたことがありますか。
問 5	『項目 1』のステレオタイプは、インド人や文化に対するあなたの認識にどのような影響を与えていると感じますか。
問 6	インド人の文化と人々に対するよりよく理解を促進するために、ネガティブなステレオタイプについてはどのように対処するのがよいと思いますか。

4.3 本調査の結果

本節では、インタビュー調査の回答をまとめる。インド人に対するイメージは、「話しすぎる」「時間にルーズ」「率直」「自分の意見を持っている」などであった。インド人と日本人の最初の交流は、たいていインドカレー店の店員を通して行われる。これもステレオタイプが形成される最初のきっかけとなる。問 1 では、A さんは、多くのインドカレー店の店員はインド人ではなく、異なる民族であると述べた。これはインド人についての誤ったステレオタイプを作り出す可能性がある。

さらに、ほとんどの対象者は、現在のインド人のイメージについても述べた。問 6 ノ回答では、E さんはインド人が IT 分野で優れていると話していた。IT 企業で働いているインド人が多いため、日本で働く多くの IT 関係者がインド人に対するこのようなイメージを作り上げている。インドの人口が世界最大になったことで、インドの都市がより混雑し、無秩序になっているというイメージもインタビューの結果から分かった。また、この 10 年でインドやインド人のイメージがどのように変わったかについても語ってくれた。日本の教科書には、インドにはカースト制度があるというイメージが描かれている。これはインド人が差別的であるというイメージを作り出している。

メディアもまた、日本におけるインド人のイメージを作り上げる重要な役割を果たしてきた。メディアを通して、歴史的な時代からのインド人のイメージは今でも続いている。例としては、100 万人以上の登録者を持つ日本の YouTube チャンネル「Candy Fox」が、インド人を滑稽に映した「Curry Police」という名前のミュージックビデオを公開した。このミュージックビデオは、インド人のステレオタイプなイメージを広め、インドの文化やアイデンティティをターゲットにしているとして、インドの視聴者から大きな反発を受けている。このような事件からインド人に対する限れていることが分かった。

しかし、インターネットの普及により、インド人に関する他の新しい考え方も生まれつつあると回答された。例えば、D さんの問 4 の回答は以下になる。

前は影響をずっと与えたと思いますけど、今はインターネット（YouTube）とかから個人的な情報も入るようになったのでリアルなものを知るきっかけがあると思います。

しかし、インターネットの普及により、インド人に関する他の新しい考え方も生まれつつある。Cさんは、問3の回答では、日本ではインド人の数が限られているため、インド人と交流し、インド人の本当の姿を知る機会が非常に少ないと回答した。また、他の人々とのコミュニケーションを通して、インド人に対するイメージが形成される。という意見もあった。Dさんの問3の回答は以下の通りである。

人のコミュニケーションによって継続化されていると思います。行ったことがない人たちが話して、イメージについて話し合います。このようにイメージが出来上がってしまっていて固定してしまいます。この出来たイメージがそのまま継続化してつながっていくと思います。

最後の質問は、日本におけるインド人について、より正確なイメージを広めるにはどうしたらいいかというものだった。これにより、ネガティブなステレオタイプやイメージの蔓延を減らすことができる。共通する答えは、インド人と日本人の交流の機会を増やすことだった。そうすることで、今までの決まったイメージを見直し、新しいアイデアやイメージを生み出すことができる。Aさんの問6で以下のように述べた。

私の体験からしてリアルなインドの方とお話をする事です。もしくは言葉は通じないのは大きな壁はあるかもしれないですけど、身近にインドの方がいればあれ！って、テレビと違うよ。皆がターバンを巻いているわけじゃないし、大きな方もいれば小さい方もいるし、言葉は全然ヒンディー語を話せない人もいるし、英語が多少幅かもしれないけど、なんか違う。自分が聞いていたアメリカンイングリッシュがない、だが英語をしゃべっている。

このように昔形成されたイメージを改める必要があると述べている。これが、異文化理解を促進するべく交流イベント、好奇心を刺激する方法を考えると述べている。

4.3.1 全体的なイメージ

質問1では、インド人についてどのようなステレオタイプやイメージを抱いているかを尋ねた。なお、問1では、対象者に対しては「ポジティブ」「ネガティブ」なもの

とは特に限定せず、インド人に対するイメージ全般について尋ねた。表 5 に、5 名の回答を示す。

表 5 インド人に対するステレオタイプやイメージ

対象者	ポジティブ	ネガティブ
A さん	自分の考えに正直	時間にルーズ 自分勝手な考えをもっている
B さん	算数が得意 IT の研究生がたくさんいる	カースト制度
C さん	楽観的 面白い性格	話が長い 言い訳が多い 不思議 匂いがする 他の話を聞かない 危険性、怪しい 時間にルーズ カースト制度 差別的
D さん	明るい 思いやりがある	空気感がない 距離感がない
E さん	数学が得意 英語が上手 友好的 自分の意見に正直	カースト制度

ポジティブなステレオタイプとしては、主に 3 つの観点で述べられていた。まず、楽観的で面白く、コミュニケーションを楽しむ人々であるということである。つぎに、数学が得意であり、IT の研究者が多いという点についても述べられていた。最後に、明るくて、思いやりのある人で自分の考えに正直であるという回答も得られた。

一方で、ネガティブなステレオタイプとしては、時間にルーズで、自己中心的な考えといったイメージが述べられていた。また、カースト制度についても差別的な要素があると述べられていた。さらに、話し方が長くて言い訳が多い、不思議な雰囲気や匂いがする、他人の話を聞かないといった特徴も分かった。危険性や怪しさ、時間にルーズな傾向も指摘されている。最後に、馴れ馴れしい、空気を読めないといった特徴も述べていた。

4.3.2 ステレオタイプの形成理由

質問2では、質問1で挙げたステレオタイプについて、いつ、どこで知ったのかを尋ねた。表6にその結果を示す。

表6 ステレオタイプやイメージを持つようになった要因・媒体

対象者	主な要因・媒体
Aさん	メディア（テレビ）
Bさん	教科書（学校で習った）、ヨーロッパ人が書いた作品、ニュース
Cさん	友達から聞いた
Dさん	メディア（インターネット）
Eさん	インドカレー料理屋さん・教科書

まず、インド人のイメージの形成につながる要因として、メディアとインドカレー料理屋さんが挙げられていた。対象者の中では、インド人を知るきっかけはインドカレー屋であることが分かった。次に、学校で勉強した教科書や伝聞も要因であり、インド人のイメージを形成し今でも影響を与えていることが明らかとなった。さらに、ヨーロッパ人がインド人やインド文化について書いた記事は、偏見や批判に満ちていたかもしれない。そしてそれが、日本人の認識に影響を与えた可能性がある。そして現代の社会ではインターネットもイメージの形成のツールであることが分かった。

4.3.3 交流によってイメージの変化

問1と問4の回答では、対象者はインド人と出会う前にインド人についてどのようなイメージを持っていたのか、そしてそれがその後どのように変化したのかを具体的に述べている。問1では、どのようなステレオタイプを抱えているかを尋ねて、問4では、そのステレオタイプはどのような体験や事件によって形成されたかということである。その中では、交流によって形成されたステレオタイプについて、表7で示す。

表7 インド人と交流前と交流後のイメージの変化

対象者	交流前	交流後
Aさん	ターバン巻いている人 毎日カレーを食べる 自分勝手に行動をする 自時間にルーズ	自分の意見に正直 自信がある
Bさん	カースト制度	とても楽しい人

C さん	やり取りがすごく難しい コミュニケーションが難しい	楽観的 話が長い 言い訳が多い
D さん	散らかっているイメージ 明るくない 日本人と会わない性格 歴史的にネガティブなイメージ	綺麗好きな方もいる すごく明るい 思いやりがある 空気感と距離感は日本人と違う
E さん	貧困に困れている 農業しかない	友好的 IT の知識がある 自信がある 自分の意見や考えに正直

表 7 では、各対象者の交流前と交流後のイメージを比較している。上記の表 6 から、インド人についてのステレオタイプやイメージを形成する主な原因は、メディア、教科書、聞いた話、そして外からの影響であることが分かった。これらの情報源を通じて、対象者はインド人のことを知ったのである。インド人と交流前と後の認識の変化を理解することは重要であると思う。

まずは、交流前には特定のステレオタイプや偏見が存在し、交流後には新たな視点や理解が生まれていることが分かった。例えば、A さんは自己主張が強く、自由な行動をする人というイメージから、自分の意見に正直で自信がある人というポジティブなイメージに変化している。また、B さんや C さんも初めのイメージから楽観的で話し好きな人というポジティブなイメージに変化している。さらに、D さんの場合、散らかっているイメージや明るくないというネガティブなイメージから、綺麗好きな方もいてすごく明るく思いやりがある人というポジティブなイメージに変わっている。

最後に、E さんも初めは貧困に困っていて農業に従事しているというイメージでしたが、友好的で IT の知識があり自信がある人というイメージに変化した。

対話や交流を通じて人々のイメージや偏見は変化することがある。相手とのコミュニケーションや経験と通じて、より正確な理解と多様性を尊重する視点が生まれることも示している。

4.3.4 イメージを継続化された原因と方法

問 3 では、在日インド人に対するイメージはどのようなイメージが続けられているのか、また、イメージはどのような方法を通じて継続化されてきたのかも尋ねた。回答結果は表 8 に示している。

表 8 継続的に抱いているイメージとその要因

対象者	継続的に抱いているイメージ	継続化の要因
A さん	治安が悪い、性別差別	メディア（テレビの報道）
B さん	ギャギャなイメージ	メディアからの情報
C さん	やり取りが難しい、性別差別	メディアからの情報、 人との情報伝達
D さん	差別的	人との情報伝達
E さん	貧困に困っている、農業しかしない、カースト制度	メディアからの情報、教科書

A さんはテレビやネットによる情報の偏りにより、治安の悪さや女性の安全に対する不安などネガティブなイメージが広まる一方、な Tik Tok や YouTube などポジティブなイメージが発信されることもあると述べている。B さんも昔ながらのイメージが残っていると感じており、メディアがネガティブな要素を強調すると述べている。

C さんは、日本人にとって、インドに関する知識を学ぶ機会が限られていることから、メディアが主要な情報源となっており、ネガティブなイメージが強まっていると述べている。特にメディアはネガティブな要素や面白い出来事を強調する傾向があり、安全性や事故などのネガティブなイメージが広まることが指摘されている。

D さんは、人々のコミュニケーションによってイメージが継続化されていると考えている。未訪問者が既訪問者からの情報を受け取り、その情報に基づいてイメージが固定化されることがある。メディアも情報の一部となるが、人々の話し合いも重要な要素となると述べている。

最後に、E さんは数年前に比べて日本人のインド人に対するイメージが変わってきていると感じている。経済的な発展についての情報もメディアから広まっていることを挙げている。

以上のように、各対象者はメディアを含むさまざまな要素がインド人に対するステレオタイプやイメージの継続化に影響を与えていると考えている。

4.3.5 在日インド人の時代による変化

問 5 の回答からインド人に対するイメージは時代によって変化してきたということが明らかになった。例えば、E さんは日本人がもっているインド人に対するイメージが数年前から変わってきたと述べている。前は多くの人はインド人が貧困に困れて農業しかしない人だと考えていたけど、最近はメディアから経済的な発展について述べている。

次は、Dさんは、前はずっとネガティブなイメージを日本人の認識に影響を与えていたが、今はインターネットからリアルなものを知るきっかけでインド人について正確な情報が入っていると述べた。その理由で少しだけ印象が変わっていると述べた。

一方、Dさんは、歴史的なネガティブなイメージをもっている日本人もいるかもしれないと述べている。より年上の世代は古い考えやイメージをそのままもっていると述べている。

4.3.6 正確なイメージと異文化理解を促進する方法

質問6では、インド人の文化と人々に対するネガティブなステレオタイプに対処するためのアイデアや方法について尋ねた。以下、表9に結果を示す。

表9 インド人の文化と人々に対するより良い理解を促進するための方法

対象者	関係促進の方法	説明
Aさん	インド人の方との対話	インド人の方と直接対話し、彼らの文化や人々についてのリアルな情報を得る。身近にインド人がいる場合は、彼らとの交流を通じてステレオタイプを払拭する。
Bさん	芸術・映画の活用	インドの芸術や映画を積極的に取り上げ、注目を集める。映画の撮影地巡りなどを通じてインドの文化を広める。
Cさん	人の交流を増加させる	実際にインタラクションする機会を増やすことで、ステレオタイプや偏見を解消する。人のエクステンションや交流イベントを活用する。
Dさん	興味を持つ機会を増やす	日本の人々にインドに関心を持ってもらうために、ヨガや映画、アユルヴェーダ、ボリウッドダンスなど、インドのルーツに関連する要素を積極的に広める。
Eさん	インドと日本の文化交流イベント	文化交流イベントを通じて、インドと日本の文化を一緒に楽しむ機会を提供する。食事会などを通じて、インドの地域ごとの食文化を紹介する。
	教育を通じた啓発	教育によってインド文化や人々に関する正確な情報を提供し、ステレオタイプの払拭を促進する。メディアを通じても性格な情報を発信する。

まず、インド人との実際の交流を通じてステレオタイプを払拭するということが述べられていた。これは、インド人との個人的な接触を通じて、ステレオタイプが現実とは異なることを示し、相互理解を促進することを強調している。また、インド文化に興味を持つ人々を増やすこと、すなわち、映画やその他の芸術作品を通じてインド

文化に触れる機会を提供することで、人々の関心を引き誤解を解くことができるという意見も見られた。さらにインドと日本の文化交流イベントや食事会などを通じて、相互理解を深めるという点も述べられていた。これは、実際にインドの地域ごとの食事を通じて文化の多様性を体験し、興味を持つきっかけを提供することが重要だと述べている。最後に、教育やメディアを通じて、インドに関する正確な情報を提供し、インド人との交流機会を増やすというアイディも述べられた。これは、正しい情報に基づいた教育やメディア報道によって、ステレオタイプの払拭と相互関係の促進が可能であるという考えであると思われる。

以上 5 名の提案からは、相互理解や交流の重要性が共通のテーマとして浮かび上がっている。また、芸術や映画、食事、教育、メディアなど、様々な手段を通じてインド文化を広めることの重要性も指摘されていた。

5. 結果のまとめと考察

本章では、本研究の結果をまとめる。まず、日本人がインド人に対して抱いているステレオタイプについての概要を明らかにした。また、そのようなステレオタイプについて日本人はなぜ抱えるようになったか、在日インド人に対する認知に与える影響についても考察した。日本社会におけるインド人のステレオタイプの源泉を明らかにするため、インド人と接触経験のある日本人 5 名に対してインタビュー調査を行った。このことによって、日本人がインド人に対して抱いているステレオタイプは、どのような経験や媒体によってもたらされているのかを明らかにした。

本調査の結果から、日本人がインド人について知るあるいは理解する最初の機会は、主にメディアや交流から形成されたということが分かった。日本在住のインド人の数は限られており、直接交流する機会は少ない。また、B さんの回答から他の外国人と比較して、日本のメディアにおけるインド人に関する情報の流れは少ない。その結果、歴史的に抱かれてきたステレオタイプやイメージが存在し続けている。

インタビューでは、対象者の意見が重なる部分もあれば、異なる部分もあった。共通点としては、インド人は時間にルーズで、おしゃべりが好きだということであった。インドでは、コミュニケーションは親切や好意を示す手段であると考えられており、そのため、相手の関心や思いやりを示すために多く話すことが知られている。一方、日本のコミュニケーションは情報を伝えることを目的としている。そのため、コミュニケーションは正確で限定的である。また、もう 1 つの肯定的なステレオタイプとして、インド人は自分の意見を正直に言うという点も述べられていた。

さらに、コミュニケーションの違いは、高・低文脈文化につながる点である。日本人とインド人のコミュニケーションスタイルの差が存在することから、ステレオタイ

プや文化的観察が生じる可能性がある。日本人とインド人のコミュニケーションスタイルは、高・低文脈コミュニケーション文化の違いによって影響を受けている。高文脈文化の代表である日本では、情報は言外に含まれることがある。つまり、発言の裏にある意味や背景を理解するためには、共有された文化的背景や関係性が重要になる。一方、低文脈文化の特徴を持つインドでは、情報は主に明示的に伝えられる傾向がある。つまり、直接的に言葉で伝えることが重要視されている。このように、インド人は良好な人間関係を形成し保つために、コミュニケーションをとることが重要であると考えている。

一方、対象者によって異なっていた点として、インド人は差別しやすく、カースト制を強く意識する文化があるということが述べられていた。これは、インド人はオーソドックスな国という古いイメージが日本ではまだ残っているということを表していると考えられる。インド人に対する誤ったイメージだけが蔓延しているわけではなく、むしろ極端な考えが問題を引き起こしているのである。インド人も他の人々と同じように、時代とともに変化し、新しい考えや生き方に適応してきた。古いインド人のイメージを持つことは、新たなイメージが社会に入りにくくすると思う。

さらに、日本におけるインド人のイメージの形成と定着に、メディアが重要な役割を果たしてきたことは間違いない。ステレオタイプを持つことは、それが常に差別や虐待に終わることを意味するのではなく、文化的認識ツールにもなり得ることは確かだ。ステレオタイプを持つことで、相手の文化についてより多くの情報を得ることができ、ひいては異文化理解にもつながる。日本ではインド人についてどのようなイメージがあるのか、そしてそれはどのように形成されたのかを理解することで、インド人に対するイメージの特徴を理解することができるのではないかと筆者は考える。

ステレオタイプには、間違いなくネガティブな面とポジティブな面の両方がある。ステレオタイプを持つことは他のグループに対する認識に役立つ場合がある。一方、ステレオタイプは、誤解、偏見、その脅威など、否定的な側面があることも事実である。このような影響は、コミュニケーションや文化の違いを受け入れる交流など、様々な方法を通じて軽減されるべきである。インドと日本の関係が時間の経過とともに強くなるにつれ、今後もさまざまなプロジェクトで人的交流がますます増えていくだろう。そのため、両国の人々が理解を深める環境を作ることが重要であり、その初めの一歩として、存在するネガティブな固定観念の影響を減らすことが必要であると考えられる。このような固定観念は、長い間日本社会に存在してきた。今こそ、インド人に対する新たな理解を生み出す時である。

6. 結論と今後の課題

本研究の目的は、日本人が在日インド人に対して抱いているステレオタイプやイメージを明らかにすることであった。そのため、本研究では、様々な分野で職業を持つ日本人にインタビューを行い、データを収集した。その結果、在日インド人に対する日本人のイメージは、主にメディアや交流、ヨーロッパ人が書いた作品によって形成されており、過去のイメージが現在も根強く残っていることがわかった。また、日本人が様々なきっかけによって在日インド人に対して抱くようになったイメージには、肯定的なものもあれば否定的なものもあることも明らかとなった。

今後、より多くのインド人が就職や留学のために来日することが予想されることから、日本社会では、インドおよびインド人に対してより正確なイメージを持つ必要性があると筆者は考える。文化的価値観や考え方が国や人によって異なるのは当然であるが、相互理解のためには、より正確なイメージを持つことが重要である。本研究の結果から、在日インド人と日本人の相互理解を深めるためには、偏見やステレオタイプを超えたコミュニケーションが重要であることが分かった。適切な情報提供と教育を通じて、両者の間に信頼と理解を築く必要性があることが明らかになった。

筆者は、日本人と在日インド人の交流が今後ますます盛んになることを期待している。両国の人々がより深く理解し合い、良い関係性を築くことで、さまざまな分野での交流が活発化するだろう。

今後の課題としては、在日インド人に対してインタビューを行うことである。本研究の対象者は日本人だけであったため情報が足りないと思う。この研究調査を行うことでインド人が日本人に対して抱いているイメージや感じていることをより深く理解することができる。これにより、両方間の相互認識や文化理解が向上し、より良いコミュニケーションと関係が築かれることが期待される。インタビューを通じて得られる情報は、インド人と日本人の相互交流の改善や、ステレオタイプの解消に役立つ可能性がある。また、異なる文化背景を持つ人々が互いの価値観や習慣を理解することは、より多様で包括的な社会の構築にも寄与すると思う。調査の範囲や方法によっては、インド人と日本人の相互理解を向上させるための具体的な施策や教育活動の提案にもつながる可能性もある。

参考文献

- 外務省 (2022) 『日印関係 (基礎データ)』 【<https://www.mofa.go.jp/region/asia-paci/india/data.html>】 (2023 年 8 月 3 日最終アクセス)
- 日本総研 (2017) 『インド人の現状』
【<https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/english/periodical/occasional/2017/03.pdf>】
(2023 年 8 月 3 日最終アクセス)
- 日本総研 (2017) 『Current structure and outlook of Non-resident Indians (NRIs) in Japan』
【<https://www.jri.co.jp/file/english/periodical/occasional/2017/03.pdf>】 (2023 年 8 月 3 日最終アクセス)
- Allport. (1954). *The nature of prejudice*. Ireland: Addison Wesley. Chap 4 .pg. 51 {Discrimination}
- Brigham. (1972). Ethnic stereotypes and attitudes: A different mode of analysis. Florida State University, pg. 207
- Dovidio J. F & Gaertner, S. L. (1986) *Prejudice, discrimination, and racism: Historical trends and contemporary approaches*. Orlando, FL: Academic Press
- Eagly & Chaiken. (1993). *The Psychology of Attitudes*. Orlando, FL: Harcourt Brace Jovanovich Coll.pg.104
- Jackman. (1973). An interpretation of the relation between objective and subjective social status. *Am Sociol Rev* (5) p.69-82.
- Kanobana. (2012). How to use stereotypes to raise awareness of cultural interpretation and encourage intercultural competence. International Association of Technology, Education, and Development (IATED) Belgium: Ghent University. URL: <https://core.ac.uk/works/31283076>
- Lippman, W. (1922). *Public Opinion*. New York: Macmillan, Chap .2
- Long. (2015). International Communication and Stereotypes 【https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/research/journal/bk2015/pdf/no01_05.pdf】 (2023 年 8 月 3 日最終アクセス)
- Steele, C. M., & Aronson, J. (1995). Stereotype threat and the intellectual test performance of African Americans. *Journal of Personality and Social Psychology*, 69(5), 797–811
- The Japan Times (5/2021) Curry Police: A problematic music video leads to a problematic backlash 【<https://www.japantimes.co.jp/news/2021/05/29/national/media-national/curry-police-india-facebook-video/>】 (2023 年 8 月 3 日最終アクセス)
- Wadhwa, M. (2021) Indian Migrants in Tokyo. The Japan Times
【<https://www.japantimes.co.jp/culture/2021/01/23/books/indian-migrants-in-tokyo/>】
(2023 年 8 月 3 日最終アクセス)

資料

以下は、本研究におけるインタビュー調査の回答を筆者が文字化したものである。

項目 1	インド人に対して、あなたが持っている一般的なステレオタイプは何ですか。(ポジティブとネガティブなステレオタイプを含めて)
A さん	<p>私はインドに行ったことがありますけど、インドに行く前にインド人のイメージってみんながターバンを巻いている人だと思いました。皆がターバンを巻いて毎日カレーを食べていて、言葉はヒンディー語が全員しゃべれると思っていました。でも、英語もしゃべれる。テレビで見るインド人は身長が高く、顔が小さくて、それで皆の肌の色も皆は同じだと思っていました。それは本当に私がもっているインド人に対してのステレオタイプ。</p> <p>前、インドの人と知り合ったことがなくて、しゃべるとすればカレー料理屋さんだけど、彼はインド人だと思ったけれど、ネパール人だった。ネパールの人は日本に来てカレー料理屋を開く。でも、インドに人は日本に来ないのじゃないか。よくテレビとかで電車とか車とかバスとかでいっぱい人が乗って、中は並ばない、時間にルーズ、よく言えば自分の考えに正直な人。だけど悪く言えば自分勝手な考えをもっていると思う。周りに合わせられない人たちというのがインドに行くまでのイメージ。</p>
B さん	<p>学校で習ったことが一番かなということがあって、カースト制度、それが一番大きいかなと思います。インドは人口が多いとか、町の雰囲気だとすごくごちゃごちゃしているとかなんかマーケットがたくさんあります。国としてのイメージはがやがやしていることだね。南のほうにあるので国として熱いようなイメージですね。今東南アジアから人がたくさん日本に来ている。働くために来ているか観光のために来ているかは良く分からないけど、そうすると何人か分からないね。インドネシアの人なのか、タイの人なのか、インドの人なのか、結局皆が一生時やないけどどこかの一つなのだろうなという感じで終わってしまいます。そして、ステレオタイプだと算数が得意で IT の研究生がたくさんいる。実際にこうやってあってみるとインド人はとても楽しい感じがするのだけど自分のステレオタイプは許可書から学んだこととテレビで見たイメージだとなんかちょっとぐらいイメージがあるかな。</p>
C さん	<p>まずは話が好きで、長いです。そして言い訳が多いです。楽観的なイメージがあります。次は少し不思議ですね、ストレンジだと思います。そして、面白いと思います。ネガティブなことは匂いをするんです。そして他の話を聞かないことです。次は少しダマスみたいな感じです。僕はそう思っていないですけど、みんながそうイメージをもっていると思います。怪しい、危ない、だまされるかもしれないということです。あとはネガティブなことは時間にルーズです。あとはカースト制度のことです。すごく差別的なんじゃないかと思います。最後にすぐ踊ります。</p>

D さん	インド人の姿に合う前は全然日本人と会わないと感じました。国もすごく遠いです。私はアユルヴェーダについて勉強することになってから、インドの方とワイワイすることが増えました。それから、インドの方のイメージが 180 度変わりました。すごく明るくて、思いやりがあることは日本人と共通すると思います。ネガティブなことを言うと日本人は空気感や距離感や気を遣うことはそんなになんないと思います。でも、国全体は活気が溢れているので少しあこがれの気持ちもあります。
E さん	まずは、日本人はインドといったらカレー料理やガンジーズ川やガンジが頭の中に浮かんでくると思います。次は数学に得意で、英語が上手に話せることです。私は、インド人が友情的で、グループに話している時自分の意見に正直です。後は、インド人は真面目で自信をもっていると思います。次は、インド人は英語がうまく話せると思います。ネガティブな点は、歴史的に続けられているカースト制度のことです。

項目 2	『項目 1』のステレオタイプは「いつ」「どこ」知りましたか。
A さん	このような考えは交流した前にメディアから知りましたね。そして、いつかという交流した後はこのようなイメージになりました。
B さん	今思うと許可書は日本の許可書かどうかは知らないですけど、やっぱりヨーロッパ人が歴史を作ってきたみたいなのか、アジア全体がそれを従っていたみたいだ。なんかヨーロッパが世界を政府して明るいみたいなの、強いみたいなのイメージがあります。その人たち何を考えているかもインド人のイメージに影響を与えていると思います。
C さん	仕事していて、インドとのビジネスをしている人との友達がいました。その人は、インドとのビジネスはすごく難しいという話をつきました。例えば、交渉が大変とか、言っていることが聞いてくれないとか、そういうこと聞いて、インドってそう何だと思いました。後のばあいは、実際にインドに行った人なので、ステレオタイプとはちょっと違いますけれど、実際に働いていて経験、インド人と振り合った経験の中でも感じたことがあります。
D さん	メディアとかだと思います。「インドっていうのはこういう風なところだよ」このように紹介みたいなものがあります。そういうことで一方的なイメージをもっていました。インドはちょっと散らかっているみたいなイメージがあります。でも、実際に行ってみたらインドでもきれい好きな方がいらっしやると分かります。

E さん	日本の教科書で学んだことがあります。ガンジや歴史的な背景について日本の教科書で勉強したことがあります。最近 IT 企業や地域格差についても書かれています。人からインドは多様性の国だと聞いたことがあります。時々日本ではインドについてニュースも流れています。モディ首相がインドと海外の国と関係を強くしていると聞きました。日本、中国、アメリカなどとですね。
------	---

項目 3	このステレオタイプは継続化されていると感じられますか。もし、そうであれば、どのような方法「メディア、など」でそれが行われていると思いますか。
A さん	はい、されていると思います。テレビがすべて、ネットがすべて、身近にこうやってインドの方と接触することは本当に思われないことと言う風に見られている。何かこう…テレビの中でインドの女性が襲われるとか、治安が悪いとか、そればかり流したら日本人たちは、あ…インドは治安が悪いのですとか、女性は一人で行っちゃいけないです。すごくネガティブなイメージを持ちやすいですね。逆にチックトックとかユウチュウを見たらインド人がすごくお茶目な感じでダンスをしている。それを見た人は逆にポジティブなイメージでなんかインドはすごいねとか、きれいなところがいっぱいあるなどかを考える。メディアによって自分がもらった情報によってネガティブになるかポジティブになるかは全く分かれてしまい、残念ながらこういうイメージは日本人がもっているかなと思います。
B さん	はい、継続化されていると思いますね。昔ながらのイメージは今も残っていると思います。メディアの情報がネガティブだったら、ネガティブな部分もありつつポジティブな点もある。
C さん	はい、続いていると思います。なぜなら、インドのことを知る機会がなかなか日本人がいます。そして、教えてもらうことも少ないです。後は、周りにインド人も少ないです。本当にそうなのか分からないからずっとそう言うイメージは継続しています。メディアも一つの方法です。僕はそれがとてもシリアスな問題だと思います。なぜならメディアは本当にネガティブなこととか、面白いこと、ネガティブな面白いこととかばかり日本のメッセージをインドに対して取り上げます。例えば、女性の安全の問題と最近の電車の事故のこともあります。インドではそのようなことは時々起こるのだけど、「だから、インドは危ない、怖い」というふうな印象がメディアは日本人連れづけてしまいます。インドとは言い所のあることは発信する人は少ないですね。

D さん	人のコミュニケーションによって継続化されていると思います。行ったことがない人たちが話して、イメージについて話し合います。このようにイメージが出来上がってしまっていて固定してしまいます。この出来たイメージがそのまま継続化してつながっていくと思います。
E さん	日本人がもっているインド人に対するイメージは数年前から変わってきたと思います。多くの方はインドは貧困に困れた国だと思っていました。そして、農業しかないと思っていました。最近はイメージが変わったと思います。メディアから経済的な発展についても聞きました。

項目 4	『項目 1』のステレオタイプの形成に影響を与えた可能性のある歴史的または、文化的要因について、気付いたことがありますか。
A さん	歴史的ことなら、少し私も分からないですね。
B さん	仏教のイメージもあるし、そして歴史的にはあまり明るいイメージがないと思います。コロナの時でもガンジズ川で死んだ人いっぱい焼いているということが流れました。あれを見て何だろうなと思っていました。行動として一方的過ぎですしというのがあった。暗いニュースが普通に流れたら、なんかインドはこうなんとなく明るいというイメージがないです。僕が今インドに行ったらびっくりするかもしれないです。昔からのイメージが変わると思います。
C さん	歴史として、特に、カーストの話は日本の許可書の中に習います。お金持ちと貧しい人の中にあるギャップについて歴史から学びます。後は、日本人がインド人ト身近なのはインド料理屋さんです。初めてインドのことは知るのはインド料理屋さんだと思います。その印象はステレオタイプになります。
D さん	前は影響をずっと与えたと思いますけど、今はインターネット（ユウチュウブ）とかから個人的な情報も入るようになったのでリアルなものを知るきっかけがあると思います。インドは世界一に人口がなったのは割と前向きな部分も出すようになってきました。そのため、ちょっとだけ意識が変わっていくと思います。インドのカースト制度についても考えも残っています。日本人は仏教が好きでインドではヒンズー教が仏教を迫害してきたこともあります。一般的にネガティブなイメージがありませんけど、歴史的にネガティブなイメージをもっている日本人がいるかもしれません。
E さん	インド人の文化ではコミュニケーションの違いもあります。そして、昔はイギリスの植民地もあったとき、色々な記事あります。文化やカーストに関する記事です。

項目 5	『項目 1 の』ステレオタイプは、インド人や文化に対するあなたの認識にどのような影響を与えていると感じますか。
A さん	はい、認識に影響を与えていると思います。メディアの影響ってすごく大きくて、正直日本とインドは遠い国、日本にとってインドは須吾ク遠い国で、でもテレビがすべて、ネットがすべて、身近にこうやってインドの方と接触することは本当に思われないことと言う風に見られている。何かこう…テレビの中でインドの女性が襲われるとか、治安が悪いとか、そればかり流したら日本の人たちは、あ…インドは治安が悪いんですとか、女性は一人で行っちゃいけないです。すごくネガティブなイメージを持ちやすいですね。逆にチックトックとかユウチュウを見たらインド人がすごくお茶目な感じでダンスをしている。それを見た人は逆にポジティブなイメージでなんかインドはすごいねとか、きれいなところがいっぱいあるなとかを考える。メディアによって自分がもらった情報によってネガティブになるかポジティブになるかは全く分かれてしまい、残念ながらこういうイメージは日本人がもっているかなと思います。
B さん	はい、そうですね。前に行ったとおりに許可書やニュースからのインドのイメージを見て認識にも影響があると思います。
C さん	想像が付かないです。インド人の英語が聞き取りづらいです、早いし、発音も独特です。日本人はシャイだから、インド人がよく話しかけると、何を答えるかが分かりません。アメリカとかイギリスとかは英語を本当に授業で習っているし、昔からアメリカ人たくさん周りにいます。だから、インドって周りにいないからあまり想像がつかないから、怖い。そして、日本人はカーストのことが日本人は気にしています。それは行ってはいけないことがあるんじゃないとか、タブですね。宗教のことやカーストのことは言ったらすごく失礼です。だから、よく徹します。
D さん	今の世代のことはあまり分かりませんが、昔はきっと認識に影響があったと思います。
E さん	自分がインド人と交流したことがあります。彼らの話すときの自信に感心しているので、私もそのように自信を持って話せるようになりたいと思います。いいイメージをもっているの、インド人に対してもポジティブな考えがあります。

項目 6	インド人の文化と人々に対するよりよい理解を促進するために、ネガティブなステレオタイプについてはどのように対処するのがよいと思いますか。
A さん	私の体験からしてリエルナインドの方とお話をする事です。もしくは言葉は通じないのは大きな壁はあるかもしれないですけど、身近にインドの方がいればあれ！って、テレビと違うよ。皆がターバンを巻いているわけじゃないし、大きな方もいれば小さい方もいるし、言葉は全然ヒンディー語を話せない人もいるし、英語が多少幅かもしれないけど、なんか違う。自分が聞いていたアメリカンイングリッシュがない、だが英語をしゃべっている。インド人の方を身近に知ってもらう以外は方法がないじゃないかなとおもいます。その知るということはメディアを通して大丈夫ですし、性格や情報をもらえるというカ拾いに行くというか、それをすれば、もともと持っているインド人のイメージがくつがえされてステレオタイプがどんどんなくなっていくじゃないかなと思います。
B さん	芸術とか映画とかはとてもはやっていて、それを目立つと皆がそれを注目し始めて、そこを糸口に興味を持つみたいなのをすることです。例えば、映画のヒット RRR だと、撮影地をめぐるとかをすることです。インドはカレーの文化だから、それをきっかけでインドを広めていくということができると思います。
C さん	僕はいつもそう思っています。まずは人の交流を増加させることです。人のエクスチェンジをさかんにすることですね。いくらインターネットで調べてみても本当のイメージがわからないので、実際にインタラククションする回数を増やさない限りなかなかこのステレオタイプと偏見がくつ変わっていかないと思います。だから、僕は、一番は人が交流を増えることです。それから、興味を持つことです。日本の人がインドに興味を持つようなことをもっと増やす。例えばヨガ、インドの映画、アユルヴェーダ、ボリウッドダンスでもいいです。このように、インドにルーツがあることをもっと日本に広めていくことです。このようなことを通じて、インドのことは少し身近に知るような機会になると思います。インドの映画では違う宗教の人は結婚してはいけないということをよく見せるので、日本人はそう見て「え..インドはそういう風な国だ」と考える。その結果、好奇心を持つようになるんです。それはいいことだと思います。つまり、インドのコンテンツを日本に増やしていくことです。働く人の中では、楽観的な人はインド人と仕事がうまくできると思う。それに対して、リスクを取らない人や慎重な日本人はインド人ト働けないと思います。日本人は安定性が好です。でも、インドはすごく転換する文化です。それをマージしたらーC いい結果になると思います。このようにしたら、両方もお互いの文化を取り入れることでバランスが取れると思います。

D さん	具体的にいうと、インドや日本の間に文化交流イベントをやって、一緒に楽しんでもることのようないい経験も役に立つと思います。食事会みたいにして、インドの地域によってご飯を違うということが分かるようになります。このようにしたら、もっと興味を持つようになると思います。
E さん	まずは教育だと思います。性格な情報が手に入れば促進できると思います。そして、インド人ト交流の機会を増えることです。メディアからもそれができると思います。メディアはアメリカなどの情報をよく取り上げています。そのようにインドについても性格な情報を報告したらイメージが変わって関係が促進できると思います。